

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E1421022		音楽鑑賞法 (Method of Music Appreciation I)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 清水 慶彦 E-mail shimizu-y@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	中学校学習指導要領(音楽)に挙げられている鑑賞共通教材をおもな題材として、楽曲の様式や構造を聴取によって把握する方法を学ぶ。このことを通じて、音楽作品における「様式」の概念や、楽曲の構造ならびに形式についての理解を深める。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 音楽作品の様式や特徴を、聴取によって把握し説明できる。																	
目標2 鑑賞作品の構造や特徴を、記述ないし口頭での説明によって伝達できる。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 基礎的な概念の説明																	
2 さまざまな演奏形態(1) 独奏をふくむ室内楽																	
3 さまざまな演奏形態(2) オーケストラの音楽																	
4 さまざまな演奏形態(3) 我が国の伝統的な音楽																	
5 楽曲の構造と形式(1) ソナタ形式																	
6 弦楽四重奏曲を例としたソナタ形式の聴取と理解																	
7 交響曲を例としたソナタ形式の聴取と理解																	
8 楽曲の構造と形式(2) フーガ																	
9 鍵盤作品を例としたフーガの聴取と理解																	
10 管弦楽曲を例としたフーガの聴取と理解(1)																	
11 管弦楽曲を例としたフーガの聴取と理解(2)																	
12 ここまでのまとめと小テスト																	
13 音楽の「様式」の変遷																	
14 日本の音楽作品：小山清茂《管弦楽のための木挽歌》(鑑賞共通教材)																	
15 現代の音楽：武満徹《ノヴェンバー・ステップス》(鑑賞共通教材)																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	意見交換や発表などを含む。				工	その										
	B:意見の表現・交換					夫	他										
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	鑑賞作品についての事前調査等(15h)。															
	事後学修	鑑賞作品についての事後調査等(15h)。															
教科書	授業中に資料を配布する。																
参考書	『中学校学習指導要領解説 音楽編』、『中学校の音楽』(1・2・3上下巻 教育芸術社)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業中の課題など	40%															
	授業中の小試験、試験など	60%															
		授業中の課題、小試験、試験等により総合的に評価。															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																